

◆ 主な出演アーティスト

LEO (箏)



9歳より箏を始め、カーティス・バターソン、沢井一恵の両氏に師事。

16歳でくまもと全国邦楽コンクール史上最年少・最優秀賞・文部科学大臣賞受賞。2017年東京藝術大学に入学。MBS「情熱大陸」、テレビ朝日「題名のない音楽会」「徹子の部屋」など多くのメディアに出演。セバスティアン・ヴァイグレ、井上道義、鈴木優人、秋山和慶、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団などと共演。出光音楽賞、神奈川文化賞未来賞受賞。

<https://leokonno.com/>

佐藤隆紀 (テノール)



国立音楽大学演奏学科声楽専修卒業。2008年クラシックを中心に独自の世界を創り上げるヴォーカルグループ『LE VELVETS』のテノールとしてデビュー。ソロ活動では2015年に『タイタニック』『マリーアントワネット』『スカーレット・ピンパーネル』『エリザベート』『キューティ・ブロンド』『マタハリ』『CEHSS THE MUSICAL』『レ・ミゼラブル』など出演を重ね2022年10月から『エリザベート』フランツ・ヨーゼフ役への出演が決定している。

<https://www.le-velvets.com/>

小林愛実 (ピアノ)



2021年10月「第18回ショパン国際ピアノコンクール」第4位入賞。

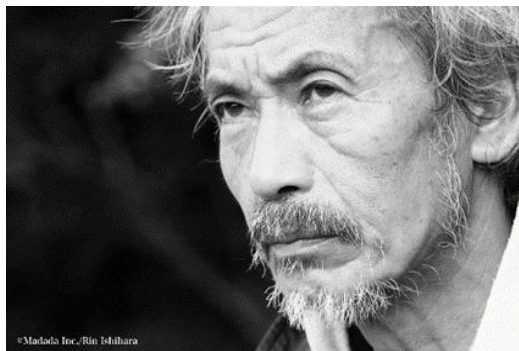
7歳でオーケストラと共演、9歳で国際デビューを果たした。数多くの国に招かれ、スピヴァコフ指揮モスクワ・ヴィルトゥオーゾ、ブリュッヘン指揮18世紀オーケストラなど多数のオーケストラと共演。2010年14歳でEMI ClassicsよりCDデビュー。

2015年10月「第17回ショパン国際ピアノコンクール」ファイナリスト。

2018年ワーナークラシックスとインターナショナル契約し、「ニュー・ステージ〜リスト&ショパンを弾く」をリリース。最新CDは、「ショパン：前奏曲集 他」。

<https://www.kajimotomusic.com/artists-projects/aimi-kobayashi/>

田中泯 (ダンサー)



1974年独自の活動を開始。「ハイパーダンス」と称した新たなスタイルを発展。78年ルーブル美術館において海外デビュー。80年代、旧共産圏で前衛パフォーマンスを多数決行。国際的に高い評価を獲得。85年山村へ移り住み、農業を礎とした舞踊活動を現在も継続中。02年に映画初出演。以後映像界でも国内外で活動中。22年1月28日に公開した田中泯ドキュメンタリー映画「名付けようのない踊り」(犬童一心監督)が全国ロードショー中。

<http://www.min-tanaka.com/wp/>